

FIEC 第 14 回大会に参加して

FIEC の第 14 回大会は、2014 年 8 月 25～30 日、フランスのボルドーで開催された。合計 17 のパネルが設定され、それぞれのパネルには運営委員会が招待した発表者 2 人と、応募によって選ばれた発表者（パネルによって人数は異なる）による研究発表がなされた。前者は 40 分、後者は 20 分の持ち時間で、使用言語は英仏独伊西であった。質問のための時間があてられず、発表は次々になされるという形式であった。パネルには伝統的な古典学のトピックのみならず、昨今の傾向を反映した古典の受容に関するようなものも多かった。日本からの発表者は逸身喜一郎（招待）・栗原裕次・長谷川敬・（非学会員の）西村周浩の 4 名である。

パネルの設定からパネルの運営は、大会 2 年前に開催される FIEC 全参加団体の委員会で承認されるが、実際上は、準備と運営にあたる運営委員会の意向に沿って企画されるといってよいだろう。2009 年のベルリン大会と比較して細部はかなり異なっていた。ただし非西欧諸国の発表者をできるだけ多くすることで全世界の古典研究者を集めようとする意図は、近年の大会に強くみられるといえる。

大会開催期間中に代議員大会が行われ、新しいプレジデントに Franco Montanari が選出された。また次回の大会は 2019 年（おそらく 6 月か 7 月に）、ロンドンで開催されることも決定した。準備と運営の中心になる大学は UCL (University College, London) である。

2017 年の初秋にはおそらく新しい大会のパネルが発表され、発表原稿が公募されると考えられる。学会員のみなさんにはふるって応募されることを期待する。自分の発表がどのように受け止められるかを知る機会であることはいうにおよばず、なんととっても世界中から集まった人たちとの巡り合いが待っているからである。

(逸身喜一郎)